

建築・社会基盤学系

1. 学系の概要

建築・社会基盤学系では、住宅、建築、都市、国土、そして地球環境に至るまでさまざまな生活空間の安全・安心および快適性を追求し、それを実現するための考え方や建築・土木技術、空間デザイン技術を学ぶ。本学系は次の3つのコースから構成されている。

・建築学コース

建築学コースは、建築における安全性や生活上の安心、そして快適な環境を実現するために、設計から施工まで総合的な技術力をもったエンジニアを育成する。

・空間デザインコース

空間デザインコースは、建築から都市スケールに至るさまざまなスケールの空間を対象として、空間そのものとその周囲との関係をデザインできるデザイナー、エンジニアを育成する。

・土木工学コース

土木工学コースは、地球環境を考えたまちづくりを目指し、安全・安心、快適な生活を支えるための社会基盤を整備するエンジニアを育成する。

各コースはそれぞれ核となる専門科目で特徴を持ちながら、必要な関連した専門科目を共有している。1年次においては教養科目や学科専門科目を中心に履修することによって幅広く工学技術者としての基礎的素養を身につける。2年次以降はいずれかのコースを選択し、学系専門科目、さらにコースの特徴を色濃く有したコース専門科目を履修していく。

建築・社会基盤学系では、専門知識を基軸に幅広い教養と想像力、実践力を養うことによって、良好な生活環境を形づくることを通して社会に貢献できる人材を養成する。

なお各種資格についての詳細は、コース別に後述しているので参照されたい。

建築学コース、空間デザインコースでは、一級建築士の受験資格を2年の実務経験を経て、また二級建築士の受験資格を卒業後に取得できるように、受験に必要な国土交通大臣の指定する建築に関する科目（指定科目）を配置している。

《建築学コース》

2 - I. コースの概要

建築学コースは、建築構造、材料、施工、環境、設備、計画などを学び、建築物が実現に至る技術を総合的に修得し、さらにこれらの専門知識を実務に応用できる能力を養う。また実験・実習を計画的に行いその結果を分析・整理する能力や、建築工学や設計の知識を統合して課題を解決しその成果をまとめる能力を養う。

2 - II. 卒業要件

卒業要件として、教養科目30単位以上、専門科目80単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。卒業要件に関する内訳を、表1-1と表1-2に示す。

表1-1 教養科目の卒業要件

区分	卒業要件単位数	分野	内 訳 等
教 養 科 目	4 単位以上	建学の理念に関わる科目	
	8 単位以上	人文・社会科学	
	8 単位以上	自然科学	
	8 単位以上	外国語	英語6 単位以上を含む8 単位以上。但し留学生は、日本語6 単位以上を含む（残り2 単位以上は母語以外の外国語）8 単位以上。
	2 単位以上	健康・スポーツ科学	
	-	海外研修	
	-	教養ゼミ	

表 1 - 2 専門科目の卒業要件

分野等		要件 単位数	科目の内訳等				
			コース摘要	要件 単位数	科目名	単位数	配当 年次
専 門 科 目 計 80 単 位 以 上	学科専門科目（Ⅰ群） 各系概論科目群	8 単 位 以 上	Ⅰ群選択必修科目	2 単 位 以 上	建築・社会基盤概論Ⅰ	2	1前
					建築・社会基盤概論Ⅱ	2	1後
			学科専門科目（Ⅰ群）から自由選択		-		
	学科専門科目（Ⅱ群） 内訳：課題研究（2単位）、 卒業研究A、B（各4単位）の 必修3科目、計10単位含む	17 単 位 以 上	Ⅱ群 選択必修科目A	2 単 位 以 上	コンピュータリテラシー	2	1前
					コンピュータサイエンス入門	2	1後
			Ⅱ群 選択必修科目B	2 単 位 以 上	総合英語Ⅰ	1	3前
					総合英語Ⅱ	1	3後
					総合英語Ⅲ	1	4前
					総合英語Ⅳ	1	4後
			選択専門必修科目	10 単 位	課題研究	2	3後
	卒業研究A	4			4前		
	卒業研究B	4			4後		
			学科専門科目（Ⅱ群）から自由選択		-		
(他学系、コース専門科目 を含む)		コース必修科目	19 9 単 位 科 目	材料基礎	2	2前	
				構造力学Ⅰ	3	2前	
				建築計画Ⅰ	2	2前	
				建築環境工学	2	2前	
				建築設計製図Ⅰ	2	2前	
				構造力学Ⅱ	2	2後	
				建築施工	2	2後	
				建築設備	2	2後	
				建築設計製図Ⅱ	2	2後	
						専門科目からの自由選択	

2 - Ⅲ. 卒業研究着手条件

卒業研究A及び卒業研究Bを履修するためには、卒業に必要な科目に関して、以下の項目を満足しなければならない。なお、編入生、転入生については、別に定める。

- (1) 教養科目を24単位以上修得していること。
- (2) 専門科目を64単位以上修得していること。
- (3) 学科専門科目（Ⅱ群）から、「課題研究」を修得していること。
- (4) 教養科目と専門科目を合計して98単位以上修得していること。

2 - IV. 教育課程表

表2-1 建築・社会基盤学系 建築学コース 専門科目教育課程表

区分	分野	授業科目	単位数	授業形態			年次及び週授業時間数								摘 要※1	教職※5		
				講義	演習	実験・実習	1年次		2年次		3年次		4年次			工	情	
							前	後	前	後	前	後	前	後				
学 科	I 群	建築・社会基盤概論Ⅰ	2	○			2									I▲	◇	
		建築・社会基盤概論Ⅱ	2	○				2								I▲	◇	
		環境工学概論	2	○				2									◇	
		エネルギー工学概論	2	○				2									◇	
		脳科学概論	2	○				2									◇	
		生命システム学入門	2	○				2									◇	
		情報システムデザイン概論Ⅰ	2	○				2									◇	
		情報システムデザイン概論Ⅱ	2	○				2									◇	
		機械・電気概論Ⅰ	2	○				2									◇	
		機械・電気概論Ⅱ	2	○				2									◇	
専 門 科 目	II 群	フレッシュマンゼミ	1		○		2											
		コンピュータリテラシー	2	○	○		2									II▲A	◇	◇
		コンピュータサイエンス入門	2	○	○			2								II▲A	◇	◇
		応用物理学Ⅰ	2	○				2									◇	
		応用物理学Ⅱ	2	○					2								◇	
		応用数学Ⅰ	2	○						2							◇	
		応用数学Ⅱ	2	○							2						◇	
		総合英語Ⅰ	1		○						2						II▲B※2	
		総合英語Ⅱ	1		○							2					II▲B※2	
		総合英語Ⅲ	1		○								2				II▲B※2	
		総合英語Ⅳ	1		○									2			II▲B※2	
		技術者倫理	2	○								2					◇	
		インターンシップ	2			○											※3	
		情報化社会と情報倫理	2	○									2					◇
		知的財産関係法規	2	○										2				◇
		課題研究	2		○								2				◎	
		卒業研究A	4		○									8			◎	
卒業研究B	4		○										8		◎			
職業指導	2	○								2					※4	◇		
情報と職業	2	○									2				※4	◇		
学 系 専 門 科 目	建築・社会基盤 (建築学コース)	建築・土木基礎製図	1			○		2									◇	
		材料基礎	2	○					2							◎	◇	
		構造力学Ⅰ	3	○	○					4						◎	◇	
		建築計画Ⅰ	2	○						2						◎	◇	
		建築環境工学	2	○						2						◎	◇	
		建築設計製図Ⅰ	2			○					4					◎	◇	
		建築・土木基礎実験	2			○					4						◇	
		建築CAD・CG	1		○						2							◇
		測量Ⅰ	2	○							2						◇	
		建築施工	2	○								2				◎	◇	
		構造力学Ⅱ	2	○								2				◎	◇	
		建築設備	2	○								2				◎	◇	
		建築設計製図Ⅱ	2			○							4			◎	◇	
		コンクリート材料	2	○								2					◇	
		建築応用力学	2	○									2				◇	
		建築計画Ⅱ	2	○									2				◇	
		歴史意匠	2	○									2				◇	
		建築法規	2	○									2				◇	
		測量Ⅱ	2	○									2				◇	
		構造力学Ⅱ演習	1		○									2			◇	
建築材料	2	○										2			◇			
鉄筋コンクリート構造Ⅰ	2	○										2			◇			
鉄骨構造Ⅰ	2	○										2			◇			
木質構造	2	○										2			◇			

区 分	分 野	授 業 科 目	単 位 数	授業形態			年次及び週授業時間数								摘 要※1	教職※5	
				講 義	演 習	実験・ 実習	1年次		2年次		3年次		4年次			工 業	情 報
							前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
学系専門科目	建築・社会基盤(建築学コース)	建築構造力学	2	○							2					◇	
		建築基礎構造	2	○							2					◇	
		環境デザイン学	2	○							2					◇	
		人間環境学	2	○							2					◇	
		都市計画	2	○							2					◇	
		都市設計	2	○							2					◇	
		建築数値解析	1		○						2					◇	
		建築設計製図Ⅲ	2			○					4					◇	
		建築材料実験	2			○					4					◇	
		建築構造実験	2			○					4					◇	
		建築環境実験	2			○					4					◇	
		測量実習Ⅰ	2			○					4					◇	
		防災工学	2	○									2			◇	
		鉄筋コンクリート構造Ⅱ	2	○									2			◇	
		鉄骨構造Ⅱ	2	○									2			◇	
		建築構造計画	2	○									2			◇	
		福祉環境学	2	○									2			◇	
		建築・社会基盤特別実習	2			○							4			◇	
		地区設計	2			○								4		◇	
		設備設計	2			○								4		◇	
構造製図	2			○								4		◇			
施工製図	2			○								4		◇			

- ※1：◎；必修、I▲；I群選択必修、II▲A、B；II群選択必修A、B、無印；選択
 ※2：建築・社会基盤学系は、「総合英語Ⅰ」を3年次前期、「総合英語Ⅱ」を3年次後期、「総合英語Ⅲ」を4年次前期、「総合英語Ⅳ」を4年次後期に配置する。
 ※3：「インターンシップ」は2、3年次の休業期間中に実施する。
 ※4：「職業指導」及び「情報と職業」の修得単位は、卒業要件単位に含まれない。
 ※5：◇は教職課程関係科目を示す。詳細は「教職課程」の項目を参照すること。

表2-2 建築・社会基盤学系 建築学コース 専門関連科目教育課程表

区 分	分 野	授 業 科 目	単 位 数	授業形態			年次及び週授業時間数								摘 要※1	教職※5	
				講 義	演 習	実験・ 実習	1年次		2年次		3年次		4年次			工 業	情 報
							前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
学系他 専門科目		空間表現基礎	1		○		2									◇	
		空間デザイン原論	2	○					2							◇	
		住まいとインテリア	2	○						2						◇	
		空間構成	2	○							2					◇	
		環境保全Ⅰ	2	○							2				※6	◇	
		空間構造デザイン学	2	○								2				◇	
		空間演出デザイン	2	○									2			◇	
		環境保全Ⅱ	2	○									2		※6	◇	
		建築設計製図Ⅳ	2			○							4			◇	

※6：「環境保全Ⅰ」及び「環境保全Ⅱ」は、自然エネルギー・環境学系配置科目。

2 - V. 資格について

・ 建築士

建築学コースを卒業し、表3に示す指定科目の単位を修得することにより、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験資格を得ることができる。

(1) 一級建築士

「一級建築士指定科目」に示す単位数を修得し、2年以上の実務経験により受験資格が得られる。

なお、「二級建築士・木造建築士指定科目」に示す単位数のみ修得した場合は、二級建築士の資格取得後、4年以上の実務経験により一級建築士の受験資格が得られる。

(2) 二級建築士・木造建築士

「二級建築士・木造建築士指定科目」または「一級建築士指定科目」に示す単位数を修得した場合、卒業後直ちに二級建築士、木造建築士の受験資格が得られる。

表3 建築士受験に必要な国土交通大臣の指定する建築に関する科目（指定科目）

指定科目の分類	授業科目名	必修選択	単位数	履修学年	一級建築士	二級建築士 木造建築士
建築設計製図	建築・土木基礎製図	選択	1	1	必修4単位を含む7単位以上	必修4単位を含む5単位以上
	建築設計製図Ⅰ	必修	2	2		
	建築設計製図Ⅱ		2	2		
	建築設計製図Ⅲ		2	3		
	構造製図	選択	2	4		
	施工製図		2	4		
建築計画	建築計画Ⅰ	必修	2	2	必修2単位を含む8単位以上	必修6単位を含む8単位以上
	建築計画Ⅱ	選択	2	2		
	歴史意匠		2	2		
	都市計画		2	3		
	都市設計		2	3		
建築環境工学	建築環境工学	必修	2	2	必修2単位以上	
	人間環境学	選択	2	3		
	環境デザイン学		2	3		
	建築環境実験		2	3		
建築設備	建築設備	必修	2	2	必修2単位以上	
	設備設計	選択	2	4		
構造力学	構造力学Ⅰ	必修	3	2	必修5単位以上	
	構造力学Ⅱ		2	2		
	構造力学Ⅱ演習	選択	1	2		
	建築応用力学		2	2		
	建築・土木基礎実験		2	2		
	建築構造力学		2	3		
	建築構造実験		2	3		
建築一般構造	鉄筋コンクリート構造Ⅰ	選択	2	3	4単位以上	必修7単位以上
	鉄骨構造Ⅰ		2	3		
	木質構造		2	3		
	建築基礎構造		2	3		
	鉄筋コンクリート構造Ⅱ		2	3		
	鉄骨構造Ⅱ		2	3		
	建築構造計画		2	3		
	防災工学		2	3		
建築材料	材料基礎	必修	2	2	必修2単位以上	
	建築材料	選択	2	3		
	建築材料実験		2	3		
建築生産	建築施工	必修	2	2	必修2単位	必修2単位
建築法規	建築法規	選択	2	2	2単位	2単位
その他	建築・社会基盤概論Ⅰ	選択必修	2	1	-	-
	建築・社会基盤概論Ⅱ		2	1		
	建築CAD・CG	選択	1	2		
	測量Ⅰ		2	2		
	測量Ⅱ		2	2		
	測量実習Ⅰ		2	3		
	福祉環境学		2	3		
	建築数値解析		1	3		
	地区設計		2	4		
	上記科目の合計単位数					
一級建築士受験 実務経験年数	一級建築士指定の単位数を修得の場合				2年以上	0年
	二級建築士指定の単位数を修得の場合、二級建築士取得後				4年以上	

《空間デザインコース》

3 - I. コースの概要

空間デザインコースは、インテリアから建築、都市、地域まで多様な空間スケールの計画・設計技術を修得し、これらの専門知識と法規、測量などの実務に関する技術も修得し実践的な能力を養う。また各種の設計製図や演習を計画的に行い、さらには地域活動や情報収集等を通して建築学や土木工学、設計の知識を統合して課題を解決し、計画的に成果をまとめる能力を養う。

3 - II. 卒業要件

卒業要件として、教養科目30単位以上、専門科目80単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。卒業要件に関する内訳を、表4-1と表4-2に示す。

表4-1 教養科目の卒業要件

区分	卒業要件単位数	分野	内 訳 等
教 養 科 目	4 単位以上	建学の理念に関わる科目	
	8 単位以上	人文・社会科学	
	8 単位以上	自然科学	
	8 単位以上	外国語	英語6 単位以上を含む8 単位以上。但し留学生は、日本語6 単位以上を含む（残り2 単位以上は母語以外の外国語）8 単位以上。
	2 単位以上	健康・スポーツ科学	
	-	海外研修	
	-	教養ゼミ	

表4-2 専門科目の卒業要件

分野等	要件 単位数	科目の内訳等					
		コース摘要	要件 単位数	科目名	単位数	配当 年次	
専 門 科 目 計 80 単 位 以 上	8 単 位 以 上	I群選択必修科目	2 単 位 以 上	建築・社会基盤概論Ⅰ	2	1前	
				建築・社会基盤概論Ⅱ	2	1後	
		学科専門科目（Ⅰ群）から自由選択			-		
	学科専門科目（Ⅱ群） 内訳：課題研究（2単位）、 卒業研究A、B（各4単位）の 必修3科目、計10単位含む	17 単 位 以 上	Ⅱ群 選択必修科目A	2 単 位 以 上	コンピュータリテラシー	2	1前
					コンピュータサイエンス入門	2	1後
			Ⅱ群 選択必修科目B	2 単 位 以 上	総合英語Ⅰ	1	3前
					総合英語Ⅱ	1	3後
					総合英語Ⅲ	1	4前
					総合英語Ⅳ	1	4後
			専門必修科目	10 単 位	課題研究	2	3後
					卒業研究A	4	4前
	卒業研究B	4			4後		
	学科専門科目（Ⅱ群）から自由選択			-			
	学系、コース専門科目（他学系 の専門科目を含む）		コ ー ス 必 修 科 目	19 9 単 位 目	材料基礎	2	2前
					構造力学Ⅰ	3	2前
建築計画Ⅰ					2	2前	
建築環境工学					2	2前	
建築設計製図Ⅰ					2	2前	
建築設計製図Ⅱ					2	2後	
土木計画					2	2後	
都市設計					2	3前	
建築設計製図Ⅲ					2	3前	
専門科目からの自由選択					-		

3 - Ⅲ. 卒業研究着手条件

卒業研究A及び卒業研究Bを履修するためには、卒業に必要な科目に関して、以下の項目を満足しなければならない。なお、編入生、転入生については、別に定める。

- (1) 教養科目を24単位以上修得していること。
- (2) 専門科目を64単位以上修得していること。
- (3) 学科専門科目（Ⅱ群）から、「課題研究」を修得していること。
- (4) 教養科目と専門科目を合計して98単位以上修得していること。

3 - IV. 教育課程表

表5-1 建築・社会基盤学系 空間デザインコース 専門科目教育課程表

区分	分野	授業科目	単位数	授業形態			年次及び週授業時間数								摘 要※1	教職※5	
				講義	演習	実験・実習	1年次		2年次		3年次		4年次			工	情
							前	後	前	後	前	後	前	後			
学 科	I 群	建築・社会基盤概論Ⅰ	2	○			2								I▲	◇	
		建築・社会基盤概論Ⅱ	2	○				2							I▲	◇	
		環境工学概論	2	○				2								◇	
		エネルギー工学概論	2	○				2								◇	
		脳科学概論	2	○				2								◇	
		生命システム学入門	2	○				2								◇	
		情報システムデザイン概論Ⅰ	2	○				2								◇	
		情報システムデザイン概論Ⅱ	2	○				2								◇	
		機械・電気概論Ⅰ	2	○				2								◇	
		機械・電気概論Ⅱ	2	○				2								◇	
専 門 科 目	II 群	フレッシュマンゼミ	1		○		2										
		コンピュータリテラシー	2	○	○		2								II▲A	◇	◇
		コンピュータサイエンス入門	2	○	○		2								II▲A	◇	◇
		応用物理学Ⅰ	2	○				2								◇	
		応用物理学Ⅱ	2	○					2							◇	
		応用数学Ⅰ	2	○						2						◇	
		応用数学Ⅱ	2	○							2					◇	
		総合英語Ⅰ	1		○						2				II▲B※2		
		総合英語Ⅱ	1		○							2			II▲B※2		
		総合英語Ⅲ	1		○								2		II▲B※2		
		総合英語Ⅳ	1		○									2	II▲B※2		
		技術者倫理	2	○								2				◇	
		インターンシップ	2			○									※3		
		情報化社会と情報倫理	2	○									2				◇
		知的財産関係法規	2	○										2			◇
		課題研究	2		○								2		◎		
卒業研究A	4		○									8	◎				
卒業研究B	4		○										◎				
職業指導	2	○								2			※4	◇			
情報と職業	2	○									2		※4		◇		
学 系 専 門 科 目	建築・社会基盤学系 (空間デザインコース)	空間表現基礎	1		○		2									◇	
		建築・土木基礎製図	1			○		2								◇	
		建築設計製図Ⅰ	2			○			4						◎	◇	
		建築計画Ⅰ	2	○					2						◎	◇	
		建築環境工学	2	○					2						◎	◇	
		材料基礎	2	○					2						◎	◇	
		構造力学Ⅰ	3	○	○				4						◎	◇	
		空間デザイン原論	2	○						2						◇	
		建築CAD・CG	1		○						2						◇
		測量Ⅰ	2	○							2					◇	
		建築・土木基礎実験	2			○				4						◇	
		建築設計製図Ⅱ	2			○					4				◎	◇	
		土木計画	2	○							2				◎	◇	
		住まいとインテリア	2	○							2					◇	
		歴史意匠	2	○							2					◇	
		建築計画Ⅱ	2	○							2					◇	
		建築法規	2	○							2					◇	
		建築設備	2	○							2					◇	
		建築施工	2	○							2					◇	
		構造力学Ⅱ	2	○							2					◇	
		構造力学Ⅱ演習	1		○						2					◇	
		建築応用力学	2	○							2					◇	
測量Ⅱ	2	○							2					◇			
建築設計製図Ⅲ	2			○						4			◎	◇			
都市設計	2	○								2			◎	◇			

区 分	分 野	授 業 科 目	単 位 数	授業形態			年次及び週授業時間数								摘 要 ※1	教職※5		
				講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	1年次		2年次		3年次		4年次			工 業	情 報	
							前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期				
学 系 専 門 科 目	建 築 ・ 社 会 基 盤 学 系 (空 間 デ ザ イ ン コ ー ス)	都市計画	2	○							2					◇		
		空間構成	2	○							2						◇	
		土木史	2	○							2						◇	
		人間環境学	2	○							2						◇	
		環境デザイン学	2	○							2						◇	
		建築基礎構造	2	○							2						◇	
		鉄筋コンクリート構造Ⅰ	2	○							2						◇	
		鉄骨構造Ⅰ	2	○							2						◇	
		木質構造	2	○							2						◇	
		測量実習Ⅰ	2			○					4						◇	
		建築設計製図Ⅳ	2			○						4					◇	
		空間演出デザイン	2	○								2					◇	
		空間構造デザイン学	2	○								2					◇	
		ランドスケープデザイン	2	○								2					◇	
		福祉環境学	2	○								2					◇	
		防災工学	2	○								2					◇	
		G I S	1		○							1						
		建築・社会基盤特別実習	2			○						4						
		地区設計	2			○							4				◇	
		設備設計	2			○							4				◇	
構造製図	2			○							4				◇			
施工製図	2			○							4				◇			

※1：◎：必修、Ⅰ▲：Ⅰ群選択必修、Ⅱ▲A、B；Ⅱ群選択必修A、B、無印：選択

※2：建築・社会基盤学系は、「総合英語Ⅰ」を3年次前期、「総合英語Ⅱ」を3年次後期、「総合英語Ⅲ」を4年次前期、「総合英語Ⅳ」を4年次後期に配置する。

※3：「インターンシップ」は2、3年次の休業期間中に実施する。

※4：「職業指導」及び「情報と職業」の修得単位は、卒業要件単位に含まれない。

※5：◇は教職課程関係科目を示す。詳細は「教職課程」の項目を参照すること。

表5-2 建築・社会基盤学系 空間デザインコース 専門関連科目教育課程表

区 分	分 野	授 業 科 目	単 位 数	授業形態			年次及び週授業時間数								摘 要 ※1	教職※5	
				講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	1年次		2年次		3年次		4年次			工 業	情 報
							前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
学 系 他 コ ー ス 専 門 科 目		建築構造力学	2	○							2					◇	
		建築材料	2	○							2					◇	
		環境保全Ⅰ	2	○							2				※6	◇	
		建築数値解析	1		○						2					◇	
		建築材料実験	2			○					4					◇	
		建築構造実験	2			○					4					◇	
		建築環境実験	2			○					4					◇	
		鉄筋コンクリート構造Ⅱ	2	○								2				◇	
		鉄骨構造Ⅱ	2	○								2				◇	
		建築構造計画	2	○								2				◇	
		環境保全Ⅱ	2	○								2			※6	◇	

※6：「環境保全Ⅰ」及び「環境保全Ⅱ」は、自然エネルギー・環境学系配置科目。

3 - V. 資格について

・建築士

空間デザインコースを卒業し、表6に示す指定科目の単位を修得することにより、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験資格を得ることができる。

(1) 一級建築士

「一級建築士指定科目」に示す単位数を修得し、2年以上の実務経験により受験資格が得られる。

なお、「二級建築士・木造建築士指定科目」に示す単位数のみ修得した場合は、二級建築士の資格取得後、4年以上の実務経験により一級建築士の受験資格が得られる。

(2) 二級建築士・木造建築士

「二級建築士・木造建築士指定科目」または「一級建築士指定科目」に示す単位数を修得した場合、卒業後直ちに二級建築士、木造建築士の受験資格が得られる。

表6 建築士受験に必要な国土交通大臣の指定する建築に関する科目（指定科目）

指定科目の分類	授業科目名	必修選択	単位数	履修学年	一級建築士	二級建築士 木造建築士
建築設計製図	建築・土木基礎製図	選択	1	1	必修6単位を含む7単位以上	必修6単位以上
	建築設計製図Ⅰ	必修	2	2		
	建築設計製図Ⅱ		2	2		
	建築設計製図Ⅲ		2	3		
	建築設計製図Ⅳ	選択	2	3		
	構造製図		2	4		
施工製図	2		4			
建築計画	建築計画Ⅰ	必修	2	2	必修4単位を含む8単位以上	必修6単位を含む8単位以上
	都市設計	必修	2	3		
	建築計画Ⅱ		2	2		
	歴史意匠		選択	2		
	空間デザイン原論	2		2		
	住まいとインテリア	2		2		
	都市計画	2		3		
建築環境工学	建築環境工学	必修	2	2	必修2単位以上	
	人間環境学	選択	2	3		
	環境デザイン学		2	3		
建築設備	建築設備	選択	2	2	2単位以上	
	設備設計	選択	2	4		
構造力学	構造力学Ⅰ	必修	3	2	必修3単位を含む5単位以上	必修5単位を含む6単位以上
	構造力学Ⅱ	選択	2	2		
	構造力学Ⅱ演習		1	2		
	建築応用力学		2	2		
	建築・土木基礎実験			2		
建築一般構造	鉄筋コンクリート構造Ⅰ	選択	2	3	4単位以上	
	鉄骨構造Ⅰ		2	3		
	木質構造		2	3		
	建築基礎構造		2	3		
	空間構造デザイン学		2	3		
	防災工学		2	3		
建築材料	材料基礎	必修	2	2	必修2単位	
建築生産	建築施工	選択	2	2	2単位	2単位
建築法規	建築法規	選択	2	2	2単位	2単位
その他	建築・社会基盤概論Ⅰ	選択必修	2	1	-	-
	建築・社会基盤概論Ⅱ		2	1		
	建築CAD・CG		1	2		
	測量Ⅰ	選択	2	2		
	測量Ⅱ		2	2		
	測量実習Ⅰ		2	3		
	空間構成		2	3		
	ランドスケープデザイン		2	3		
	空間演出デザイン		2	3		
	福祉環境学		2	3		
	地区設計		2	4		
上記科目の合計単位数					60単位以上	40単位以上
一級建築士受験 実務経験年数	一級建築士指定の単位数を修得の場合				2年以上	0年
	二級建築士指定の単位数を修得の場合、二級建築士取得後				4年以上	

《土木工学コース》

4 - I. コースの概要

土木工学コースは、構造力学、水理学、土質力学、土木計画、コンクリート材料、鉄筋コンクリート構造などの土木工学に関する専門知識の習得や、測量、施工管理など実務に応用する技術を習得し、地方産業に貢献できる人材として必要な能力を養う。また地域活動や情報収集を通して、土木工学の知識を統合する能力や、実験・実習を計画的に行い、その結果を解析・整理しまとめる能力を養う。

なお、本コースは資格取得を推奨しており、カリキュラムに必要な科目が配置されている。

4 - II. 卒業要件

卒業要件として、教養科目30単位以上、専門科目80単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。卒業要件に関する内訳を、表7-1と表7-2に示す。

表7-1 教養科目の卒業要件

区分	卒業要件単位数	分 野	内 訳 等
教 養 科 目	4 単位以上	建学の理念に関わる科目	
	8 単位以上	人文・社会科学	
	8 単位以上	自然科学	
	8 単位以上	外国語	英語6 単位以上を含む8 単位以上。但し留学生は、日本語6 単位以上を含む（残り2 単位以上は母語以外の外国語）8 単位以上。
	2 単位以上	健康・スポーツ科学	
	-	海外研修	
	-	教養ゼミ	

表7-2 専門科目の卒業要件

分野等		要件 単位数	科目の内訳等				
			コース摘要	要件 単位数	科目名	単位数	配当 年次
専 門 科 目 計80単位以上	学科専門科目（Ⅰ群） 各系概論科目群	8 単位 以上	Ⅰ群選択必修科目	2 単位 以上	建築・社会基盤概論Ⅰ	2	1前
					建築・社会基盤概論Ⅱ	2	1後
			学科専門科目（Ⅰ群）から自由選択				-
	学科専門科目（Ⅱ群） 内訳：課題研究（2単位）、 卒業研究A、B（各4単位）の 必修3科目、計10単位含む	17 単位 以上	Ⅱ群 選択必修科目A	2 単位 以上	コンピュータリテラシー	2	1前
					コンピュータサイエンス入門	2	1後
			Ⅱ群 選択必修科目B	2 単位 以上	総合英語Ⅰ	1	3前
					総合英語Ⅱ	1	3後
					総合英語Ⅲ	1	4前
					総合英語Ⅳ	1	4後
			専門必修科目	10 単位	課題研究	2	3後
	卒業研究A	4			4前		
	卒業研究B	4			4後		
	学科専門科目（Ⅱ群）から自由選択				-		
	学 系 、 コ ー ス 専 門 科 目 （ 他 学 系 の 専 門 科 目 を 含 む ）		コ ー ス 必 修 科 目	3014 単 位 目	構造力学Ⅰ	3	2前
					測量Ⅰ	2	2前
水理学Ⅰ					3	2前	
コンクリート材料					2	2後	
土木計画					2	2後	
土質力学					3	2後	
数値処理					1	2後	
水理学Ⅱ					2	2後	
測量実習Ⅰ					2	3前	
鉄筋コンクリート構造Ⅰ					2	3前	
地盤工学Ⅰ					2	3前	
土木構造力学					2	3前	
土木応用数学					2	3前	
交通計画					2	3後	
専門科目からの自由選択				-			

4 - Ⅲ. 卒業研究着手条件

卒業研究A及び卒業研究Bを履修するためには、卒業に必要な科目に関して、以下の項目を満足しなければならない。なお、編入生、転入生については、別に定める。

- (1) 教養科目を24単位以上修得していること。
- (2) 専門科目を64単位以上修得していること。
- (3) 学科専門科目（Ⅱ群）から、「課題研究」を修得していること。
- (4) 教養科目と専門科目を合計して98単位以上修得していること。

4 - IV. 教育課程表

表8 建築・社会基盤学系 土木工学コース 専門科目教育課程表

区分	分野	授業科目	単位数	授業形態			年次及び週授業時間数								摘要※1	教職※5		
				講義	演習	実験・実習	1年次		2年次		3年次		4年次			工	情	
							前	後	前	後	前	後	前	後				
学	I 群	建築・社会基盤概論Ⅰ	2	○			2									I▲	◇	
		建築・社会基盤概論Ⅱ	2	○				2								I▲	◇	
		環境工学概論	2	○				2									◇	
		エネルギー工学概論	2	○				2									◇	
		脳科学概論	2	○				2									◇	
		生命システム学入門	2	○				2									◇	
		情報システムデザイン概論Ⅰ	2	○				2									◇	
		情報システムデザイン概論Ⅱ	2	○				2									◇	
		機械・電気概論Ⅰ	2	○				2									◇	
		機械・電気概論Ⅱ	2	○				2									◇	
専	II 群	フレッシュマンゼミ	1		○		2											
		コンピュータリテラシー	2	○	○		2									II▲A	◇	◇
		コンピュータサイエンス入門	2	○	○		2									II▲A	◇	◇
		応用物理学Ⅰ	2	○				2									◇	
		応用物理学Ⅱ	2	○					2								◇	
		応用数学Ⅰ	2	○						2							◇	
		応用数学Ⅱ	2	○							2						◇	
		総合英語Ⅰ	1		○						2						II▲B※2	
		総合英語Ⅱ	1		○							2					II▲B※2	
		総合英語Ⅲ	1		○								2				II▲B※2	
		総合英語Ⅳ	1		○									2			II▲B※2	
		技術者倫理	2	○								2					◇	
		インターンシップ	2			○											※3	
		情報化社会と情報倫理	2	○									2					◇
		知的財産関係法規	2	○										2				◇
		課題研究	2		○									2			◎	
		卒業研究A	4		○										8		◎	
		卒業研究B	4		○											8	◎	
職業指導	2	○								2					※4	◇		
情報と職業	2	○									2				※4	◇		
学	系	建築・土木基礎製図	1			○		2									◇	
		材料基礎	2	○					2								◇	
		測量Ⅰ	2	○					2							◎	◇	
		建築・土木基礎実験	2			○			2								◇	
		水理学Ⅰ	3	○	○				4							◎	◇	
		都市マネジメントゼミⅠ	1		○				2								◇	
		構造力学Ⅰ	3	○	○				4							◎	◇	
		構造力学Ⅱ	2	○						2							◇	
		構造力学Ⅱ演習	1		○						2						◇	
		建築応用力学	2	○							2						◇	
		測量Ⅱ	2	○							2						◇	
		コンクリート材料	2	○							2					◎	◇	
		土木計画	2	○							2					◎	◇	
		土質力学	3	○	○						4					◎	◇	
		数値処理	1		○							2					◎	◇
		水理学Ⅱ	2	○							2					◎	◇	
		都市マネジメントゼミⅡ	1		○						2						◇	
		都市設計	2	○								2					◇	
		鉄筋コンクリート構造Ⅰ	2	○								2				◎	◇	
		鉄骨構造Ⅰ	2	○								2					◇	
都市計画	2	○								2					◇			
土木史	2	○								2					◇			
地盤工学Ⅰ	2	○								2				◎	◇			
土木構造力学	2	○								2				◎	◇			

区分	分野	授業科目	単位数	授業形態			年次及び週授業時間数								摘要※1	教職※5			
				講義	演習	実験・実習	1年次		2年次		3年次		4年次			工	情		
							前	後	前	後	前	後	前	後					
学系専門科目	建築・社会基盤(土木工学コース)	土木施工技術	2	○													◇		
		一般火薬学と法令	2	○														◇	
		土木応用数学	2	○							2					◎		◇	
		土木法規	2	○							2							◇	
		環境保全Ⅰ	2	○							2					※6		◇	
		測量実習Ⅰ	2			○					4					◎		◇	
		コンクリート実験	2			○					4							◇	
		福祉環境学	2	○									2					◇	
		防災工学	2	○									2					◇	
		ランドスケープデザイン	2	○									2						
		G I S	1		○								2						
		上下水道工学	2	○									2						
		河川工学	2	○									2						
		道路工学	2	○									2					◇	
		交通計画	2	○									2			◎		◇	
		土木施工管理	2	○									2					◇	
		環境保全Ⅱ	2	○									2			※6		◇	
		建築・社会基盤特別実習	2			○							4						
		測量実習Ⅱ	2			○							4					◇	
		土木設計製図	2			○							4					◇	
水理・土質実験	2			○							4					◇			
地盤工学Ⅱ	2	○										2				◇			
土木CAD	1		○										2				◇		
地区設計	2			○									4			◇			

※1：◎：必修、I▲：I群選択必修、II▲A、B：II群選択必修A、B、無印：選択

※2：建築・社会基盤学系は、「総合英語Ⅰ」を3年次前期、「総合英語Ⅱ」を3年次後期、「総合英語Ⅲ」を4年次前期、「総合英語Ⅳ」を4年次後期に配置する。

※3：「インターンシップ」は2、3年次の休業期間中に実施する。

※4：「職業指導」及び「情報と職業」の修得単位は、卒業要件単位に含まれない。

※5：◇は教職課程関係科目を示す。詳細は「教職課程」の項目を参照すること。

※6：「環境保全Ⅰ」及び「環境保全Ⅱ」は、自然エネルギー・環境学系配置科目。

4 - V. 資格について

・測量士、測量士補

測量法により、卒業生は測量士補の、卒業後1年以上の測量の実務経験で測量士の、それぞれ無試験登録申請資格が得られる。なお、測量士・測量士補試験は年齢や学歴、実務経験などに関係なく受験できる。

・1級土木施工管理技士、2級土木施工管理技士

建設業法により、卒業生は卒業後1年以上の土木施工管理の実務経験で2級土木施工管理技士の、3年以上の実務経験（そのうち1年は指導監督的な実務経験）で1級土木施工管理技士の、それぞれ受験資格が得られる。なお、2級土木施工管理技士（種別：土木）に関しては、卒業見込みの年度に学科試験のみを受験することができる。また、土木施工管理技士と同様の条件で下表に示す各種の施工管理技士の受験資格も得られる。

種 目	1 級	2 級		
	実 務 経 験	種 別	実 務 経 験	卒業年度の学 科試験の受験
土 木 施 工 管 理	種目に関し指導監督的実務経験1年以上を含む3年以上	土 木	種別に関し1年以上	○
		鋼構造物塗装		×
		薬液注入		×
建 築		○		
建 築 施 工 管 理		軀 体	種目に関し1年以上	×
		仕 上 げ		×
電 気 工 事 施 工 管 理				
管 工 事 施 工 管 理			○	
造 園 施 工 管 理			○	
建 設 機 械 施 工		第 1 種 ） 第 6 種	種別に関する6月以上の実務 経験を含む1年以上	×

教 職 課 程

本学には、「教職課程」が設けられている。教職課程は、将来教育職員になる場合に必要な免許状を取得するために、教育職員免許法及び同施行規則に定められた専門科目を履修する課程である。

教育職員免許状の取得を希望する学生は、本学の学則に定められている各学科の卒業に必要な単位数の他に、教職課程の科目の単位を修得しなければならない。

そのためには、計画的に、その科目が開設されている学年、時期に履修する必要がある。

1. 免 許 状

本学で取得できる免許状の種類及び免許科目は、以下のとおりである。

高等学校教諭一種免許状（工業）

高等学校教諭一種免許状（情報）

2. 授与権者

免許状は、申請にもとづいて、都道府県の教育委員会が授与する。

3. 基礎資格

基礎資格としては、「学士（工学）の学位を有すること」が必要である。本学では、学則の定めるところに従って、卒業要件124単位以上を修得し、学士（工学）の学位を得ることを言う。

4. 教職課程の登録と教員免許状取得に必要な科目

(1) 教職課程の登録について

本学では、教育職員免許状の取得を希望する学生は、教職課程の登録をしなければならない。登録は原則として1年次前期とする。希望者は6月に実施する教職課程登録についてのガイダンスに必ず出席すること。

(2) 教員免許状取得に必要な科目

① 基礎科目

	教育職員免許法施行規則に定める科目	授業科目名	単位数		備 考
			必修	選択	
基 礎 科 目	日 本 国 憲 法	法 学 I	2		これら4科目より2単位以上選択必修
		法 学 II	2		
	体 育	健 康 ス ポ ー ツ I		1	
		健 康 ス ポ ー ツ II		1	
		健 康 ス ポ ー ツ III		1	
		健 康 ス ポ ー ツ IV		1	
	外国語コミュニケーション	英 語 I		2	
		英 語 II		2	
	情 報 機 器 の 操 作	コンピュータリテラシー		2	
		コンピュータサイエンス入門		2	

② 教職に関する科目

高等学校教諭一種免許状を申請するには、必修科目は全科目修得しなければならない。

※ 教職に関する科目は、卒業要件単位数には含まれない。

※ 教職に関する科目の必修・選択は、免許状を取得するための必修・選択の区別であり、卒業要件単位数としての必修・選択とは異なるので注意すること。

	教育職員免許法施行規則に定める科目	授業科目名	単位数		備 考	
			必修	選択		
教 職 に関 する 科 目	教職の意義等に関する科目	教 職 論	2			
	教育の基礎理論に関する科目	教 育 基 礎 論	2			
		教 育 心 理 学	2			
		教 育 制 度 論	2			
	教育課程及び指導法に関する科目	教 育 課 程 論	2			該当教科の教育法を履修すること。
		工 業 科 教 育 法 I	2			
		工 業 科 教 育 法 II		2		
		情 報 科 教 育 法 I	2			
		情 報 科 教 育 法 II		2		
		特 別 活 動 の 指 導 法	1			
		教 育 の 方 法 と 技 術	2			
	生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目	生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2			
		教 育 相 談	2			
	教 育 実 習	教 育 実 習	3			
教 職 実 践 演 習	教 職 実 践 演 習 (高)	2				

③ 教科に関する科目及び教科又は教職に関する科目（工業）

	教育職員免許法施行規則に定める科目区分	授業科目名	必修	選択 必修	備 考
教 科 に関 する 科 目	工業の関係科目	エ ネ ル ギ ー 工 学 概 論	2		必修科目の10単位と選択必修科目から8単位の計18単位以上修得すること。 これ以外にも「工業の関係科目」として多くの選択科目が開設されている。
		環 境 工 学 概 論		2	
		機 械 ・ 電 気 概 論 I	2		
		機 械 ・ 電 気 概 論 II		2	
		建 築 ・ 社 会 基 盤 概 論 I	2		
		建 築 ・ 社 会 基 盤 概 論 II		2	
		情 報 シ ス テ ム デ ザ イ ン 概 論 I	2		
		情 報 シ ス テ ム デ ザ イ ン 概 論 II		2	
		技 術 者 倫 理	2		
		自 然 エ ネ ル ギ ー 概 論		2	
		自 然 エ ネ ル ギ ー 設 計 法 A		2	
		熱 工 学 I		2	
		ブ レ イ ン コ ン プ ュ ー タ イ ン タ フ ェ イ ス		2	
		産 業 心 理 学		2	
		実 験 デ ザ イ ン 法		2	
		情 報 シ ス テ ム デ ザ イ ン 基 礎 実 習 I		2	
		情 報 シ ス テ ム デ ザ イ ン 基 礎 実 習 II		2	
		O R		2	
		製 図 基 礎		2	
		機 械 ・ 電 気 実 験 A		2	
		機 械 ・ 電 気 実 験 B		2	
		構 造 力 学 I		3	
	材 料 基 礎		2		
建 築 設 計 製 図 I		2			
水 理 学 I		3			
職 業 指 導	職 業 指 導	2		卒業要件単位数に含まない。	
教科又は教職に関する科目					16単位必修であるが、教科に関する科目の単位数から充当する。

※ 下線の科目は一般的包括的内容を含む科目である。

④ 教科に関する科目及び教科又は教職に関する科目（情報）

	教育職員免許法 施行規則に定める科目区分	授業科目名	必修	選択	備考	
教科 に 関 す る 科 目	情報社会及び情報倫理	情報化社会と情報倫理	2			
	コンピュータ及び情報処理 (実習を含む)	デジタル信号処理			2	
		アルゴリズムとデータ構造			2	
		オブジェクト指向プログラミング			2	
		オペレーティングシステム			2	
		コンピュータアーキテクチャ			2	
		情報数学			2	
		プログラミング基礎	2			
		プログラミング応用			2	
		ゲームプログラミング			2	
		情報技術Ⅰ	2			
		知能情報システム			2	
		C A D 基礎	2			
		デジタル回路	2			
		工業 C A D Ⅰ			2	
		工業 C A D Ⅱ			2	
		無線システム工学			2	
		建築 C A D ・ C G			1	
	数値処理			1		
	土木 C A D			1		
	情報システム (実習を含む)	システム工学	2			
		システム最適化方法			2	
		離散システム			2	
		ソフトウェア工学	2			
		データベース			2	
		組込みシステム			2	
	情報通信ネットワーク (実習を含む)	シミュレーション			2	
		ネットワークプログラミング			2	
		情報セキュリティ			2	
		情報技術Ⅱ			2	
情報通信ネットワーク		2				
マルチメディア表現及び 技術 (実習を含む)	通信工学			2		
	マンマシンシステム			2		
	C G	2				
	グラフィックプログラミング			2		
マルチメディアデザイン	マルチメディアデザイン			2		
	画像処理			2		
情報と職業	情報と職業	2			卒業要件単位数に 含まない。	
教科又は 教職に関 する科目		16単位必要であるが、本学においては教科に関する科目で充当する。				

※ 下線の科目は一般的包括的内容を含む科目である。

5. 教育実習・教職実践演習

教育実習および教職実践演習（高）は教職専門科目の総まとめであり、講義で培った知識を、実践をとおして体得してゆく科目である。従って教育実習・教職実践演習（高）以外の教職専門科目は3年次までに修得しておくことが望ましい。また、2週間ではあっても、生徒を指導する立場に立つ以上、日頃から服装、言葉遣い、態度には十分注意すること。

なお、教育実習の履修条件は、次のとおりである。

- ① 卒業見込者であること。
- ② 教職専門科目の内、教職に関する科目では「教育課程論」、「特別活動の指導法」、「教育の方法と技術」および該当する教科教育法の単位を修得済みであり、当該年度において教職専門科目（教科に関する科目および教職に関する科目）の必修科目の全てを修得見込みであること。

6. 教員免許状の申請

教職専門科目等を履修し単位を修得した卒業見込者については、教員免許申請を大学が一括して行う。4年次11月下旬に実施する説明会で必要書類を配付するので、指定期日までに申請書類と手数料を納付すること。卒業後に申請する場合には、個人申請となるので自己の住所地の都道府県教育委員会に問い合わせること。

7. 聴講の課程

在学中に教職専門科目を履修しなかった者で免許状の取得を希望する場合は、科目等履修生として教職課程を履修することができる。

8. 教員採用試験

教員には私立高校の教員と公立高校の教員とがあり、後者の教員を希望する場合には都道府県等の教員採用試験に合格しなければならない。教員採用試験は関東近県では、毎年5月願書受付、7月上旬に試験が実施されている。筆記試験科目としては一般教養、教職専門、専門科目があり、その他面接（個人、集団）試験や適性検査がある。（各都道府県により違いがあるので教育委員会に確認すること。）

無断でガイダンスに欠席したり、教職専門科目の登録を怠れば教育実習の取り消し等不利益を受けるので、十分注意すること。そして4年間で確実に教育職員免許状を取得するためのサポートとなるのが、毎年度実施される教職ガイダンスである。掲示に注意し、必ず出席すること。不明な点があれば学務課に問い合わせること。

教科に関する科目（施行規則に定める科目区分：工業の関係科目） 選択科目一覧

学科専門科目（Ⅱ群）

コンピュータリテラシー、コンピュータサイエンス入門、応用物理学Ⅰ、応用物理学Ⅱ、応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱ、知的財産関係法規

学系専門科目

自然エネルギー・環境学系

自然エネルギー概論、環境とライフスタイル、自然エネルギーと適正技術、自然エネルギー設計法A、自然エネルギー設計法B、自然エネルギー・環境実習A、自然エネルギー・環境実習B、自然エネルギー・環境実習C、熱工学Ⅰ、熱工学Ⅱ、熱機関、省エネルギー、太陽エネルギー、風力エネルギー、バイオエネルギー、自然エネルギー特別講義Ⅰ、環境法規・法令、環境保全Ⅰ、環境保全Ⅱ、環境機能性材料、エコトランスポートーション、花火と環境、エネルギー環境と歴史、エネルギー環境と倫理

生命システム学系

産業心理学、実験デザイン法、実験デザイン演習（1単位）、ブレインコンピュータインタフェイス

情報システムデザイン学系

OR、確率・統計、データ解析、システム制御、情報システムデザイン基礎実習Ⅰ、情報システムデザイン基礎実習Ⅱ、情報システムデザイン応用実習Ⅰ、情報システムデザイン応用実習Ⅱ、デザインマネジメント、マーケティングとデザイン、品質工学、プロダクトデザイン、センサ工学、環境マネジメントシステム、MOT概論、デザイン論、感性科学とデザイン、コンピュータ造形法、ロボットシステム、生産システム、メカトロニクス、ロボット創生学、材料計画とデザイン、応用システムデザイン

機械・電気工学系

製図基礎、機械・電気実験A、機械・電気実験B、機械・電気実験C、機械・電気実験D、シーケンス制御Ⅰ、シーケンス制御Ⅱ、材料力学A、材料力学B、流体力学Ⅰ、流体力学Ⅱ、機構学、金属材料基礎、金属材料、機械工作法、機械要素、切削加工、JIS機械製図、JIS機械製図応用、機械力学A、機械力学B、流体機械、非金属材料、塑性加工、精密加工、機械設計、機械設計応用、アクチュエータ工学、電気回路Ⅰ及び演習（3単位）、基礎電子回路及び演習（3単位）、電気磁気学Ⅰ及び演習（3単位）、過渡現象、電気電子物性、パワーエレクトロニクス、半導体デバイス工学、高電圧工学、PC援用材料力学、機械力学C、材料力学C、材料強度学、力学計測基礎、3DCAD（4単位）、CAE基礎（3単位）、3D計測Ⅰ、CAM実習（3単位）、CAD/CAMデザイン総合演習Ⅰ、CAD/CAMデザイン総合演習Ⅱ、CAE応用（3単位）、電気回路Ⅱ、電子回路、伝送回路、電気磁気学Ⅱ、電気電子計測、発変電工学、送配電工学、電力系統工学、電気法規・施設管理、電気電子材料、電気通信法規、電磁波工学、電気電子工学実験

建築・社会基盤学系

建築・土木基礎製図（1単位）、材料基礎、構造力学Ⅰ（3単位）、構造力学Ⅱ、構造力学Ⅱ演習（1単位）、建築応用力学、測量Ⅰ、測量Ⅱ、測量実習Ⅰ、建築・土木基礎実験、都市設計、鉄筋コンクリート構造Ⅰ、鉄骨構造Ⅰ、都市計画、福祉環境学、防災工学、地区設計、建築計画Ⅰ、建築計画Ⅱ、建築環境工学、建築施工、建築設備、建築設計製図Ⅰ、建築設計製図Ⅱ、建築設計製図Ⅲ、建築設計製図Ⅳ、建築法規、歴史意匠、木質構造、建築基礎構造、人間環境学、環境デザイン学、設備設計、構造製図、施工製図、コンクリート材料、土木計画、土木史、建築構造力学、建築材料、鉄筋コンクリート構造Ⅱ、鉄骨構造Ⅱ、建築構造計画、建築数値解析（1単位）、建築材料実験、建築構造実験、建築環境実験、空間表現基礎（1単位）、空間デザイン原論、住まいとインテリア、空間構造デザイン学、空間構成、土質力学（3単位）、水理学Ⅰ（3単位）、水理学Ⅱ、地盤工学Ⅰ、地盤工学Ⅱ、土木構造力学、土木施工技術、一般火薬学と法令、土木応用数学、道路工学、交通計画、土木施工管理、測量実習Ⅱ、都市マネジメントゼミⅠ（1単位）、都市マネジメントゼミⅡ（1単位）、土木法規、土木設計製図、コンクリート実験、水理・土質実験

※上記科目は、記載のない限り1科目2単位である。